

はあとふる

Info. 7



8月1日に、本校会場で地域支援センター特別支援教育研修会を実施しました。今回は、「愛着障がいを抱える児童生徒の支援について」というテーマで、東京大学大学院の遠藤利彦教授をお招きし講演していただきました。はあとふる info. 7では、研修会の様子や大切なキーワードなどをご紹介します。

研修会の様子



幼稚園、小学校、中学校、高等学校、他の特別支援学校より、50名の先生方が参加されました。どの先生も、大変熱心に研修を受けていました。

「愛着障がい」と診断される子どもは、ごく稀であるという話が、講演の冒頭にありました。子どもが健全に育つための「基本」の一つがアタッチメント（＝愛着）であり、愛着と愛情がイコールではないというお話もありました。また、アタッチメントは単なる皮膚の接触ではないというお話もありました。

「非認知」能力の大切さ

- ☆「非認知」能力を促すことが生涯発達に影響する。
- ☆「認知」「学力」も「非認知」の支えがあってこそ確実に伸長する。
- ☆「非認知」の中核は自己と社会性の心の力である。
 - ・「自己」にかかわる心の性質（基盤としての自己信頼）
 - ・「社会性」にかかわる心の性質（基盤としての他者信頼）

アタッチメントと「安心感の輪」

- 大人は子どもの「安全な避難所」「安心の基地」としての役割がある。
- ☆「安全な避難所」としての役割
 - ・崩れた感情に寄り添い、共感的に受け止め、崩れた感情を立て直し、安心感を回復させる。
 - ☆「安心の基地」としての役割
 - ・安心感を得て、元気になった子どもを、また一人で探索や冒険に向かっていけるように応援し、離れたところから見守る。